

ふるさと教育 取組事例

学校名	海士町立海士小学校・福井小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
6	総合的な学習 の時間	『レッツ！海士おこし！！』 ～子ども議会の取り組み～	○各地区のフィールド ○地域の方々 ○町長はじめ議員のみなさん
ねらい	○地域とのかかわりのなかで自分がやってみたいことを町づくりの視点で課題設定し、子ども議会に向けて合同学習や多様な調査活動等によって課題解決を図っていく。		
<p>1 取組の概要</p> <p>子ども自らがテーマを設定し、地域に出かけていって調査やデータ分析をした上で提案にまとめ、実際の議場で町長や役場課長に向けて発表する。子どもなりの視点と言葉で「ふるさと海士をよくする」ために行う提案の場は、小学校のふるさと学習の集大成として位置づけられている。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。 (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>これまでの生活経験や学習体験をもとに、子ども達が海士町の魅力を生かして「やってみたい」と感じたことを町づくりへの提案につながるようにしている。また、地域の方との座談会（お茶べり会）では、子どものアイデアを否定せず、受け止め、さらにワクワクできる方法を助言してもらうように地域の方にかかわってもらっている。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>提案作成という課題解決に向けて多様な調査活動を「やってみる」というかたちで奨励し、評価・修正していくという探究活動のプロセスを大事に展開してきた。アンケート調査やインタビューについては他教科で取り組んできた学習内容を活用していくというはたらきかけができるように各校で伴走体制を工夫している。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等） (ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の提案や調査活動自体が町づくりにつながっているという認識 ○真剣に反応してくれる町長や行政職員の姿から得られる肯定感、ふるさと愛 ○提案実現のために自分にどんなことができるのかを考える挑戦意識 ○自分の提案作成を応援してくれる地域の方への感謝の気持ち <p>(学力育成の視点から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人の「やってみたい」をどのように町づくりのために意味づけていくのかを考える力 ○提案作成のための課題設定力と多様な方法で解決してみようとする行動力・挑戦力 ○自分の提案をわかりやすく、説得力をもたせて伝えていこうとする表現力 <p>4 課題や今後の展望</p> <p>インタビューに出かける機会は多いが、現状を把握するために役場に出かけることが多かった。役場で聞いた情報をもとにさらにいろいろな方へインタビューに出かける時間がなかったのが、提案を深める意味でも少しもったいなく感じた。今後はICTを積極的に活用していく反面、地域に出かける時間を確保し、より充実した提案になるような工夫が必要になってくる。</p>			

